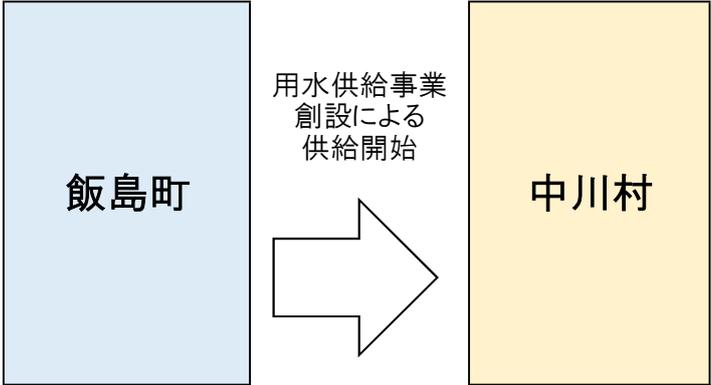


事例の種類・名称	事例の種類	事例の名称
	【広域連携】	用水供給事業創設による広域連携
事業規模等 (飯島町)	給水人口 : 8,620 人 1日最大給水量 : 3,878 m <sup>3</sup> /日 給水面積 : 26.24 km <sup>2</sup> 職員数 : 【直営】 5 人【第三者委託】 0 人【委託】 0 人 ※数字は、令和5年4月1日時点	
事業規模等 (中川村)	給水人口 : 4,629 人 1日最大給水量 : 1,951 m <sup>3</sup> /日 給水面積 : 26.37 km <sup>2</sup> 職員数 : 【直営】 2 人【第三者委託】 0 人【委託】 0 人 ※数字は、令和5年4月1日時点	
スキーム等		<b>【用水供給に至った両市町の課題】</b> ① 飯島町の課題 人口減少社会における将来の給水収益の減少が懸念 ② 中川村の課題 片桐地区における井戸の取水量減少や、年末年始やお盆といった帰省シーズンにおける慢性的な水不足の発生
経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成14年 8月 … 『中川村へ水を融通する緊急分水・応急給水に係る協定』を締結 → 一時的な水不足の時期を中心に、中川村に分水を実施</li> <li>○ 令和元年11月 … 中川村の深井戸からの取水量の低下が顕著となり、常時分水を申し入れ</li> <li>○ 令和2年 1月 … 常時分水の申し入れを受け、飯島町の用水供給事業創設に向け協議開始</li> <li>○ 令和4年 4月 … 飯島町の水道用水供給事業が創設</li> <li>○ 令和4年 7月 … 連絡管1カ所目の接続が完了し、供給を開始(平均190m<sup>3</sup>/日)</li> <li>○ 令和5年 2月 … 連絡管2カ所目の接続が完了し、供給を開始(平均240m<sup>3</sup>/日)</li> <li>○ 令和5年度以降に連絡管3カ所目の接続を目指し、最終的な用水供給量は800m<sup>3</sup>/日となる見込み</li> </ul>	
広域連携のメリット	① 飯島町のメリット 基幹施設である樽ヶ沢浄水場の施設能力(5,700m <sup>3</sup> /日)に対し、平均給水量が約3,200m <sup>3</sup> /日と余裕があり余剰分を中川村に用水供給することで、料金収入の増加に期待。料金収入の増額分は、施設更新費用や料金の値下げ等の新たな財源に見込むことが可能。 ② 中川村のメリット 新たな水源開発にかかる費用を削減した上で、水不足シーズンにおいても安定的な給水が可能。	
広域連携のデメリット	<b>【課題】</b> ① 用水供給事業を開始したことで、より一層責任が増えた。平常時は十分に水はあるが、降雨で河川が濁り、高濁度で取水停止となった場合などには、既存の配水池容量では水が足りず、断水区域が両町村の広範囲に及ぶ恐れがあるため、緊急時に水を確保するための配水池の拡張やバックアップ水源の確保等の対策が急務である。 ② 用水供給連絡管で供給範囲を広げたことにより、2町村間での工事断水範囲の調整や漏水があった場合など水圧の変化の影響など調査範囲が広がった。	
業務形態	公公連携 … 隣接した水道事業者による水道用水供給事業創設による供給	